

西区食育推進ネットワークの ススめ

—西区食育推進ネットワークの取組について—



制作・発行

札幌市西区保健福祉部 健康・子ども課
〒063-0812 札幌市西区琴似2条7丁目
TEL 011-621-4241

西区環境キャラクター
さんかくやまベエ



西区役所は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



さっぽろ市
01-Q03-20-2249
R2-1-198

SAPPORO

毎日の食事を

おいしい！と感じることができたら

それは幸せなこと。

より「おいしく食べる力」を

個人で、家族で、地域で育てていきませんか。

人を良くすると書いて「食」。

今日では、地球の持続可能性においても重要な役割を果たします。

「おいしく食べる力」を学び、育て、つなげていくことは、人と地球も良くしていくこと。

さあ、西区食育推進ネットワークを始めましょう。

What?

「食育」って何？

食育の推進に関する施策等を担う農林水産省によると、「食育」とは、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けられるとともに、様々な経験を通じて、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるもの…としています。

平成 17 年（2005 年）には、食育の基本的な理念を提示した法律である「食育基本法」が制定され、国全体で食育を進めていくことが示されました。

参考：農林水産省ホームページ「食育の推進」<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/#食育推進施策>

知育・徳育・体育・食育の関係

生きる上での基本

知育

知識の習得によって知能を高めることを目的とする。

徳育

自立した人間として、他者より良く生きるための基盤となる道徳性を養う。

体育

生涯にわたって運動やスポーツに親しむのに必要な素養と健康・安全に生きていくのに必要な身体能力、知識などを身に着けること。

食育 生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの

「食に関する知識」、「食を選択する力」…なんだか難しそう！専門知識もないし・・・

専門知識は必ずしも必要とは限らないよ。毎日の中であたりまえのように行っていることを、じっくりと考えることが大切なんだ。

例えば、食事前の「いただきます」と食事後の「ごちそうさま」の挨拶。今日の食事を食べられるのは、どんな人たちの働きが関わっているのかな。生産者、市場、流通関係や小売店で働く人、電気、ガス、水道等のインフラ事業で働く人たち…。どこかひとつでも滞ったら、食事ができなくなるかもしれないね。「いただきます」や「ごちそうさま」には、今日の食事に関わっている全ての人に対する感謝や敬意が込められている。こんなことを考えて、話合うだけでも、十分、「食育」を行っていると言えるよ。



具体がわかる！

食育基本法 7 つの理念

全部で33条からなる食育基本法の第2条から第8条は「食育に関する基本理念」を定めており、比較的わかりやすい言葉で書かれています。

- 1 国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成
- 2 食に関する感謝の念と理解
- 3 食育推進運動の展開
- 4 子どもの食育における保護者、教育関係者等の役割
- 5 食に関する体験活動と食育推進活動の実践
- 6 伝統的な食文化、環境と調和した生産等への配慮及び農山漁村の活性化と食料自給率の向上への貢献
- 7 食品の安全性の確保等における食育の役割

この基本理念を知ることで、食育の取組の方向性がわかり、今後、何をしたらよいのか、具体的なアイデアが出るかもしれないね。



世界へはばたく！"Shokuiku"

近年、日本の食育に関する各国の研究者の関心が高く、政府は研究や国際協力を通じて、その手法や成果を世界に発信しています。ベトナム国ハノイ医科大学の講師は、日本の食育を自国に応用するため、学校給食の見学にきました。また、JICA（国際協力機構）が受け入れたアジア・アフリカの研修員に対しては母子栄養改善についての日本の施策を紹介しています。

また、世界的経済誌である「Forbes」の日本版では、「外国人を憧れさせる日本の学校給食 Shokuiku」が取り上げられたり、アメリカの新聞「Washington Post」でも日本の給食や食育が高く評価されたりするなど、注目を集めています。



参考：内閣府「平成30年度食育白書」https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h30_index.html

What?

第3次札幌市食育推進計画」って何？

いつ、作られたの？

国の「食育基本法」の目的・理念を踏まえ、同法第18条第1項にもとづく市町村食育推進計画として、平成30年(2018年)3月に「第3次札幌市食育推進計画」が策定されました。

目的は？

「第3次札幌市食育推進計画」が策定された背景は、同計画の中で詳しく説明されていますが、重点取組として挙げられている項目は次のとおりです。

- 1 健康寿命の延伸につながる食育の推進
- 2 若い世代を中心とした食育の推進
- 3 多様な暮らしに対応した食育
- 4 環境に配慮した食生活の推進
- 5 「食」の安全・安心の確保の推進
- 6 農業を身近に感じる都市環境の実現
- 7 食文化の継承と食環境整備
- 8 「さっぽろ食スタイル」の推進
- 9 地域における食育推進体制整備



「西区食育推進ネットワーク」にも関係があるの？

「札幌市第3次食育推進計画」(第5章 計画の推進)の中で、計画の推進は市民が主役とした上で、家庭、学校など、地域・関係団体、事業者、行政がそれぞれの役割に応じて主体的に活動することが重要と述べているよ。

地域、学校、企業等の自主的で継続的な食育活動を促進するため、本市の食育の課題を踏まえ食育を推進する団体、企業、学校等の有機的な集合体が協力し、食育事業を推進することを目的として、市内各区で食育推進ネットワークが設立されたんだ。

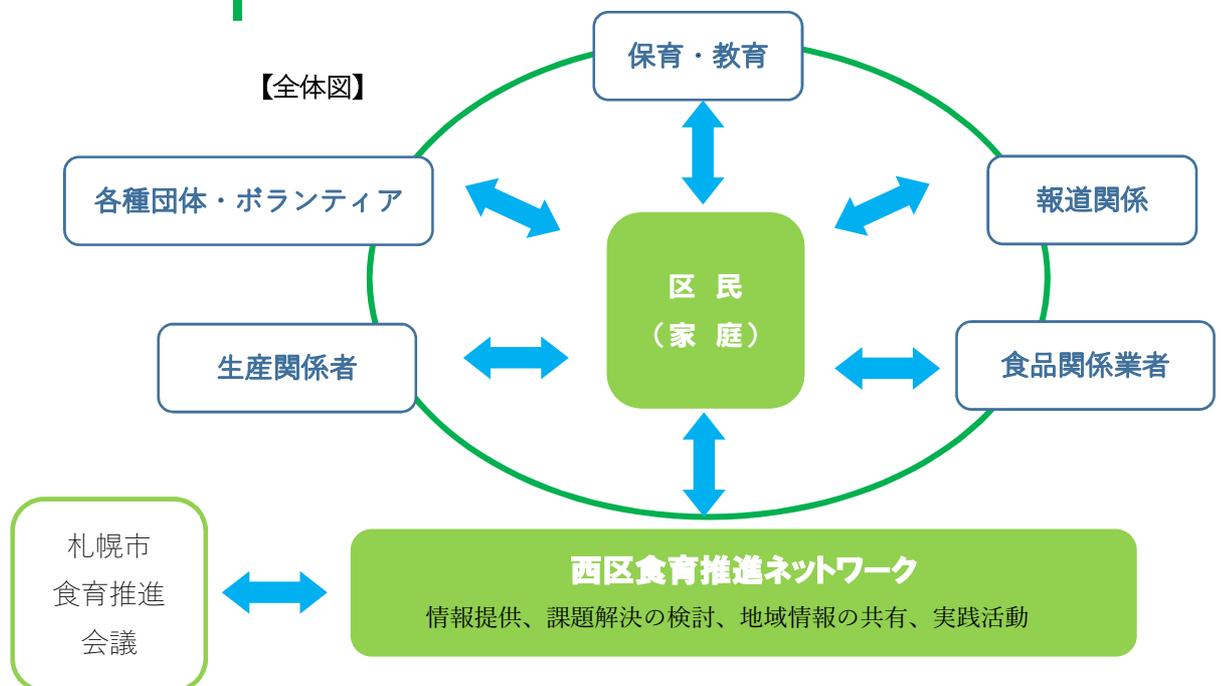
参考：札幌市保健福祉局保健所 「第3次札幌市食育推進計画」 <https://www.city.sapporo.jp/hokenjo/syokuiku/dai3zikeikaku.html>

目的

西区食育推進ネットワークは、地域、学校、企業等の自主的な食育活動を促進するため、札幌市および西区の食育の課題を踏まえ、食育を推進する団体、企業、学校等が協力し、札幌市の食育事業を推進することを目的とし、平成26年に設置されました。(実際の活動は平成27年度からです)

位置づけ

各区の保健福祉部では、食育推進ネットワークを設置し、区内の関係機関と、食の課題を共有し、共に連携して札幌市食育推進会議を推進しています。



活動

(構成) 西区の地域、保育、教育、企業、行政等の代表

(回数) 会議は、年1回以上

(内容) ネットワークでは、主に以下の内容について活動を行う

- (1) 参加者相互の情報交換
- (2) 食をとおした健康づくりを実践するための企画検討、実施
- (3) その他、食育推進に必要な事項

西 区

食育推進ネットワーク委員を

ご紹介します！

(敬称略・順不同)

- 1 イオン北海道株式会社イオン札幌発寒店
- 2 石屋製菓株式会社
- 3 JAさっぽろ経済部西経済センター
- 4 株式会社らむれすー三角山放送局
- 5 札幌市小学校校長会西区支部
- 6 西区食生活改善推進員協議会
- 7 男性料理教室「しらかばクラブ」
- 8 札幌市私立保育園連盟西区会
- 9 札幌市私立幼稚園西区・手稲区合同園長会
- 10 札幌市栄養教諭・栄養士西ブロック会

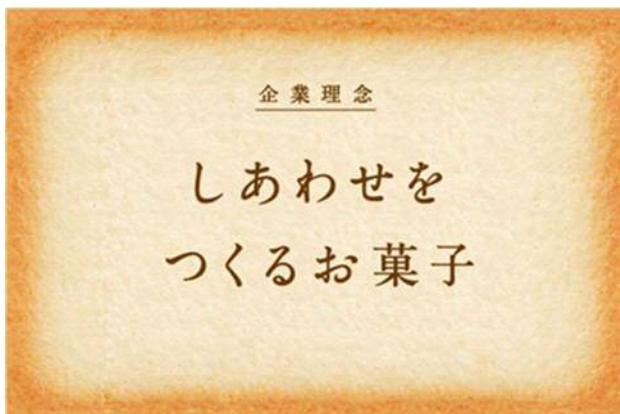
※記載されている活動は、最新の状況を反映しているものではなく、新型コロナウイルスの影響で中止・変更になっている場合がありますことご了承ください。

1. イオン北海道株式会社イオン札幌発寒店



イオン札幌発寒店の近隣の子どもたちを対象に、学習や体験の場を提供している「札幌発寒イオンチアーズクラブ」では、環境や地域をテーマに様々な活動を行っております。その中でも、食につながる体験活動として定植から畑の管理・収穫までを行う農業体験や、環境や人権に配慮しSDGsの目標達成に貢献できるお買い物を学ぶ買うエコ体験セミナーを提供し、子どもたちへの食育を推進しています。

2. 石屋製菓株式会社



石屋製菓の企業理念である「しあわせをつくるお菓子」の「しあわせ」は、お客様、地域、社員のしあわせのこと。西区役所と連携しながら、お菓子作り体験会や「ふるさと発見！西区ものづくり見学ツアー」等に協力し、お菓子作りの楽しさや食への感謝を伝えていきます。

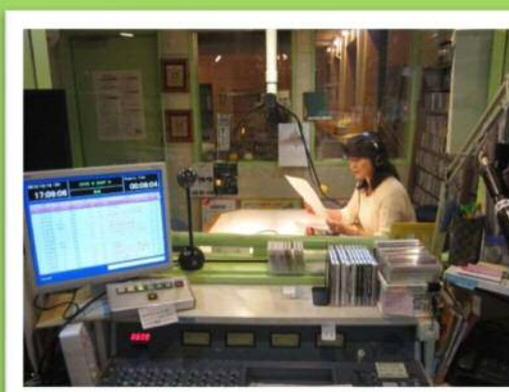
3. JA さっぽろ経済部西経済センター



JA さっぽろ(西経済センター)は、都市型農業を活かして新鮮な野菜を地域の皆様にお届けできるよう努めています。主な農畜産物は「小松菜」や「サッポロスイカ」や「大浜みやこ南瓜」です。「小松菜」はビニールハウスや露地栽培により、市内の学校給食にも提供しています。そして、手稲山口地区で栽培されている「サッポロスイカ」は、水はけがよく、一日の寒暖差が大きい砂地栽培の特性により、甘いのが特徴的です。「大浜みやこ南瓜」はホクホク感と甘みのある味が好評で、贈答用にお買い求めになるお客様が多く、道内・道外の方からたくさんの問い合わせや注文をいただいています。今後も自治体や関係団体等と連携して札幌産の野菜の魅力をより多くの地域住民の方々に発信していきたいと考えています。

4. 株式会社らむれすー三角山放送局

株式会社らむれすが運営する三角山放送局は「いっしょに、ねっ！」を合言葉に、誰もが思いを伝えることができるラジオ局を目指し、車椅子を利用するパーソナリティ、目が不自由で盲導犬と共にスタジオ入りするパーソナリティなど、さまざまな方が思いを発信しています。



「いっしょに、ねっ！」はSDGsの理念「誰ひとり取り残さない」にも通じる考え方です。西区の食育にも生かしていきたいと考えています。左の写真は、道内各地の自然栽培野菜を直売するイベント「自然栽培マルシェ」です。

このようなイベントを通じて、食の大切さを伝えていくことができると考えています。

5. 札幌市小学校校長会 西区支部

10. 札幌市栄養教諭 栄養士西ブロック会



子どもたちが地場産物を食べることを通して、生産者へ感謝の気持ちを持ち、健やかな体作りのために必要な栄養について学び、しっかり野菜を食べられるよう食指導に取り組んでいます。

西区産の野菜を使う日は、普段は野菜が苦手な子も残さずに食べる様子が見られるようになりました。西区の子どもたちが「野菜が大好き！」になってくれることを願っています。

地域の健康づくりの案内役

6. 西区食生活改善推進員協議会



1976年（昭和51年）から食を通した様々な地域密着型の活動を実施しているボランティア団体です。愛称は「食改（しょっかい）さん」。地域住民一人ひとりが健康に過ごせるよう、子どもから高齢者を対象に家族、そしてお隣さん、お向かいさんと働きかけ、仲間とのふれ合いを通じて、地域ぐるみの良い食習慣づくり、健康づくり活動を広めます。

7. 男性料理の会 しらかばクラブ



平成 20 年（2008 年）に発足した、男性料理教室のグループです。メンバーは 50 歳代から 70 歳代です。**シンガポールチキンライス、えびとレンコン・ごぼうのベトナム風サラダ**…こんなお洒落なメニューを作る日もあります。料理上手な方も、苦手な方も、一緒に楽しく活動しています。

8. 札幌市私立保育園連盟西区会

なりきり遊びから始まる園の「食育」。身近な遊びから興味を広げ、「これもやってみたい」「これもおもしろそうだ」の気持ちに繋がります。

園庭で採れた小松菜、じゃが芋、南瓜、胡瓜、ピーマンやくるみを調理したり、行事では流しそうめん、焼き芋、ちゃんちゃん焼きを経験したりします。

「もっと、やってみたい」「もっとおもしろそう！」「もっと。もっとの食育」に取り組んでいます。

（八軒太陽の子保育園）



「もっと。もっと！」の食育を！

9. 札幌市私立幼稚園西区・手稲区合同園長会



お箸だって使える！
クッキングだってできる！
野菜も育てられる！

インターナショナル山の手幼稚園（IYK）では、毎年5月に園庭にじゃがいもの種芋、ピーマン、ミニトマトの苗を植えて、8月の収穫まで育てます。8月にはCrops Thanksgiving Dayという収穫祭があり、育てた野菜を使ってカレーライスを作ったり、園庭でもちつきをしたりします。また、管理栄養士の先生から、食べ物の栄養や食のマナー、お箸の使い方を教えてもらい、「食べることは成長にかかせないこと」を日々感じている子ども達です。「**はやね、はやおき、元気にあいさつ、あさごはん**」を合い言葉に、正しい食生活から毎日の健康、命の大切さを学ぶ教育を行っています。

西区食育推進ネットワークの活動にご興味のある方は

西区健康・子ども課 管理栄養士（☎621-4241）までご連絡
ください！



ほんの一例です

ネットワークを活用した取組事例

親子食育料理教室



札幌市栄養教諭・栄養士
西ブロック会



西区食生活改善推進員
協議会

西区にお住まいのお子さんとその保護者様が一緒に料理をしたり、地産地消についての講話を聞いたりすることで、食に関する興味・関心を高めます。

JA さっぽろ経済部
西経済センター



西区食生活改善推進員
協議会



株式会社石屋製菓

キッズシェフ

小松菜農園へ行ってみよう！見てみよう！



西区にお住まいの親子を対象に、小松菜農園へ収穫体験後、生産者やJAさんのお話を聞き、収穫した小松菜を使った調理実習を行います。

例えば

これからは、こんな活用方法も？

※記載の活動は例であり、各組織の了承を得たものではありません。

札幌野菜で野菜スイーツクッキング！



JA さっぽろ経済部
西経済センター



札幌私立幼稚園西区・
手稲区合同園長会

チョコレートから考えるSDGs

「総合的な学習の時間」フェアトレードについて学ぼう



フェアトレードの
チョコレート

株式会社 石屋製菓



札幌市小学校校長会
西区支部

他のネットワーク委員と一緒に取り組んだ方が、効果的に行えることはないかな？と考えることが大事なんだね。



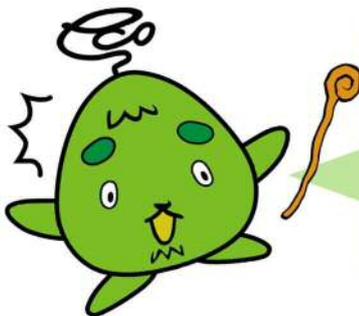
なぜ？

なに？

食と SDGs のイイ関係

SDGs（持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals の略）は、平成 27 年（2015 年）9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された、2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための **17** のゴール（目標）と **169** のターゲット（取組・手段）から構成され、地球上の誰一人として取り残さない（no one will be left behind）ことを誓っています。SDGs は全ての国や企業、自治体、そして一人ひとりが取り組むもので札幌市も平成 30 年（2018 年）に政府から「SDGs 未来都市」に選定されるなど、積極的に取り組んでいます。うーん。遠い海の向こうの話という感じがします。自分には関係がなさそう・・・。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ここ数年、サケ・サンマ・イカ等が記録的な不漁で、価格が高騰しているのは、気候変動が一因と言われているし、高温による家畜の健康問題や乳量の低下など、身近な“食”は、世界的な問題とつながっていることが多いんだ！その他にも、地球の限界を超えた消費活動や、製品・エネルギーの海外依存など、地球は今のあたりまえの生活をこれからもずっと続けていくのが困難な状況にあるんだよ！

実は…

SDGsと「食」、相性がいいんです！

「食」は、人が生きていく上で必要な栄養を取るだけでなく、心の成長や豊かさにもつながる等、大きな可能性を含んでいます。さらに、「食」は「持続可能な開発目標（SDGs）」が設定する17のゴールのほとんどあるいは、全てにあてはまるのが特徴的。例えば、近所のレストランをSDGsの視点で見ると、次のように考えることができます。

Goal 1：貧困をなくそう

（視点）⇒従業員、アルバイトの労働対価が適正である。生産者に対し適正な対価を持って食材の調達を行っている。

Goal 2：飢餓をゼロに⇒子ども食堂など、地域の低所得者向けの取組を行っている。

Goal 3：すべての人に健康と福祉を

⇒ヘルシーメニューや糖尿病食対応など、健康や栄養面に配慮したメニューを提供している。

Goal 4：質の高い教育をみんなに

⇒従業員の教育制度がある。食育など地域の教育機関と連携した取組を行っている。

Goal 5：ジェンダー平等を実現しよう

⇒従業員の雇用、労働条件における男女間やLGBTに対する差別がない。

Goal 6：安全な水とトイレを世界中に

⇒節水に取り組んでいる。過剰な洗剤利用や廃食油の下水への排出など、水質悪化につながることを行っていない。

Goal 7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに

⇒照明のLED化や給湯・空調の効率化など、省エネルギー対策を行っている。

太陽光発電など再生可能エネルギーを導入している。

Goal 8：働きがいも経済成長も

⇒社内イベントや奨励制度など、従業員、アルバイトの働きがいの向上につながる取組を行っている。

Goal 9：産業と技術革新の基盤を作ろう

⇒期間限定や店舗限定メニューの提供など、店舗の価値向上に向けた取組を行っている。

Goal 10：人や国の不平等をなくそう

⇒車椅子対応や乳幼児、障がい者への対応など、誰もが飲食できる環境を整えている。幼児や高齢者向けメニューなど、誰もが利用できる店舗づくりに配慮している。

Goal 11：住み続けられる街づくりを

⇒地域のイベントへの出展や住民を対象とした店内イベントなど、地域の活性化に繋がる取組を行っている。

Goal 12：つくる責任 つかう責任

⇒食品ロスの削減に向けた取組を行っているか。食品残さや食べ残しの堆肥化など、廃棄物のリサイクルに向けた取組を行っている。



<続き>

Goal13：気候変動に具体的な対策を

⇒地産地消の食材など、輸送の際にCO2排出が少ない食材を調達している。

Goal14：海の豊かさを守ろう

⇒MSC認証やASC認証など持続可能な水産資源の確保に向けた取組を行っている食材を調達している。

Goal15：陸の豊かさも守ろう

⇒JAS認証や地産地消産品など、持続可能な農業や畜産物による食材を調達している。

FSC認証の割箸やペーパーナプキンの使用など、森林保全に配慮している。

Goal16：平和と公正をすべての人に

⇒顧客に対し平等に接し、誰もが安心して利用できる店舗づくりに配慮している。

Goal17：パートナーシップで目標を達成しよう

⇒地域の生産者や顧客との関係が「見える化」され、様々な主体とともに店舗を運営している。

いかがですか？先のレストランの例から、「食」は、栄養のみならず、「環境」、「経済」、「社会」などの様々な分野に関連することがわかります。ということは、「食」において、何かひとつを解決した場合、効果が波及して、SDGsのゴールに関連するその他の課題も同時解決ができる可能性が高いということ。「食」とSDGsの相性の良さはここにあります。

そのためには、単独で取り組むのではなく、市役所（区役所）、家庭、企業、地域が連携して、市民全体で取り組むこと、そして次の3つを意識して取り組むことが必要です。

- ① SDGs についての知見を広げ、その達成について理解する。
- ② 共通のゴールまたは関連するゴールをお互いが認識し、新しい協働の形を生み出す。
- ③ 意見の押し付けではなく、お互いに議論する。

参考) 札幌市環境局 国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」の推進 <https://www.city.sapporo.jp/kankyo/sdgs/index.html>

この3つを踏まえて、西区食育推進ネットワークの活動に取り組んでいくことで、札幌市や西区の食やライフスタイルに魅力を感じる人が増えて、持続可能な社会に向けた行動へつなげていけるといいよね！



